



福島市庄野地区から冠雪の吾妻小富士を眺める

Bonne Année !

2025年が皆様にとりまして良い年でありますように
一般社団法人福島日仏協会 理事長 太田英晴

元旦の計 “積ん読崩し”

私の寝室は自宅北西角にある車庫2階の10畳程の和室。西側の壁際に洋、和タンスが置かれ、北側には押し入れと半間の窓、取り付けの洋タンスがある。部屋に入ると入り口から両側に衣類ケースや雑誌、資料が積み、洋、和タンス前には本を入れたダンボール箱、東側の窓際には高さ1～1.3メートルの本の山になっている。残るスペースは布団を敷くと本などに囲まれた状態で、東枕で寝て本を読むので、買い込んだ本は窓際に積み重ね続けるので“積ん読”の山となってしまった。1,2階に本棚や本箱があるものの収容しきれず、応接間の通路、八畳の客間も置く始末。古書店に売って処分しようと思いつつも、手放すのが惜しく溜まる一方になっている。

本を読まないと落ち着かない“活字中毒”状態で、子供時代には買い与えられた武井武雄や初山滋などの童画に魅せられ、また江戸川乱歩の「少年探偵団」やアレクサンドル・デュマの「三銃士」「巖窟王」等々に胸躍らせ、学校から帰ると県庁脇にあった県立図書館へ通い詰めたものである。中学時代は吉川英治の「宮本武蔵」などに夢中になり、高校に入った当時は武者小路実篤、志賀直哉などに面白さを感じ、時にD・H・ローレンスの「チャタレー夫人の恋人」や谷崎潤一郎「鍵」など今ではどうと言う事も無いものを父に隠れて読んでいた。高校後半からは大学受験なども控え、また大学では仏文科授業でフランス作家の原文講読などに苦勞、福島民報記者時代は取材に追われ読書からしばらくは離れていた。

その様な中で、たまたま訪れた書店で米国のロバート・B・パーカーのハードボイルド“私立探偵スペンサー”シリーズの味のある爽快さに嵌り、これが切っ掛けになって手あたり次第の読書がまた始まった。六十代からは山本周五郎、藤沢周平、池波正太郎などの時代小説を手にし、文章も明快で人情味溢れ痛快な筋立て、しっかりした登場人物の描写など読後感がスッキリしてストレス解消になった。最近では辻堂魁の「風の市兵衛」シリーズ、葉室麟や山本一力の作品、以前に読んだ澤田ふじ子の「公事宿事件書留帳」「高瀬川女舟歌」シリーズも再度

取り出して堪能している。これはほんの一部。他に月刊の科学雑誌「ニュートン」や「サライ」「NHKラジオ深夜便」、書店巡りで目についた本を買い込むので“積ん読の山”は積み重なるばかり。



枕元の“積ん読”の本の山

その山が崩れたのは、14年前の東日本大震災。発生時には福島民報社にいて、8階からエレベーターに乗り込んだ途端に激震が襲った。3階で扉があき、閉じ込められずに済んだが、自宅に戻ると家屋の被害は殆ど無かったものの、寝室は窓際の本の山や物が崩れて足の踏み場も無い様な有様だった。夜間に震災に遭ったならば本に埋まりどうなっていたかと身の危険を感じたものである。更に3年前の3月16日夜に緊急地震速報で震度4の強い地震があり、家族に声を掛けようと寝床から出た直後に今度は震度6弱の強震に襲われ、再び本の山が布団の上にドッと崩れ覆い被さった。先ぶれの地震が無ければ寝床で本に埋まっていたに違いない。ゾッとする一瞬だった。重なった本の重さは身に染みていたからである。

この状況に“積ん読”崩しに取り掛かろうと思いつつも、そのうちに…と延ばし延ばしにしていたが、巳年の今年は歳男、気持ちは若いながら年相応に体力の衰えも感じるようになった。そこで新たな年を迎え、今年こそ「一年の計“積ん読崩し”は元旦にあり」と誓った次第。さて年末に枕元の本の山がスッキリと解消されている事になるのか…。

菅野 輝栄 (会員)

私のフランス語日記 **Mon journal en français** « Citations »

Il existe de nombreuses citations qui nous font réfléchir. Aujourd'hui, j'aimerais partager avec vous certaines de mes citations préférées.

① **La valeur d'un homme ne se mesure pas à ce qu'il a pris, mais à ce qu'il a donné.** --*Albert Einstein*—

Ceci est un avertissement contre les désirs matériels, les désirs financiers et le désir de posséder.

② **Ce n'est pas la quantité que nous donnons qui compte, mais l'amour que nous mettons en donnant.** --*Mère Teresa*—

Il s'agit probablement d'une référence à « Le don offert par une pauvre veuve (L'Évangile de Marc) ».

Il y a des similitudes avec une scène d'«Autant en emporte le vent» dans laquelle une prostituée a fait un don d'« argent sale » à l'armée pendant la guerre de Sécession.

③ **L'histoire est un ensemble de mensonges acceptés écrits par les vainqueurs.** --*Napoléon*—

Les manuels d'histoire doivent être lus comme des histoires et non comme fait historique à apprendre.

④ **Les Français se plaignent de tout, et toujours.** --*Napoléon*—

L'empereur comprenait vraiment son peuple.

⑤ **Tous nos actes justes n'étaient que linges souillés.** --*Livre d'Isaïe*—

Il existe différents types de justice en Israël et dans le monde arabe. Poutine envahit l'Ukraine pour la justice en laquelle il croit.

⑥ **Le poursuivant et le poursuivi chantent tous deux le nom de Dieu.** --*Citation arabe*—

Cette citation montre qu'il existe des choses qui ne peuvent pas être résolues.

⑦ **Les femmes sont comme le bon vin, elles se bonifient avec l'âge.** --*inconnu*—

Je comprends saisisement pourquoi le président Macron a choisi sa professeure de lycée comme épouse.

名言には私たちに考えさせてくれるものが多々あります。今日は私のお気に入りの名言のいくつかを皆さんと共有しましょう。

① 人の価値は、その人が何を得たのかではなく、何を与えたかによって測られる。(アルバート・アインシュタイン)

物質望、金銭欲、所有欲に対する警告でしょう。



② 大切なのは、どれだけ多くを与えたかではなく、それを与えることに、どれだけ愛をこめたかです。(マザー・テレサ)

これはおそらく「やもめの献金(マルコによる福音書)」への言及です。『風と共に去りぬ』では南北戦争中に売春婦が軍に「汚い金」を献金するシーンあり類似点があります。

(出典: 三田キリスト協会 Web)

③ 歴史とは勝者によって書かれものであり、その実は受け入れられた嘘の集合体である。(ナポレオン)

歴史教科書は、学ぶべき史実としてではなく物語として読むべきものでしょう。

④ フランス人はあらゆること常に不平を言う。(ナポレオン)

皇帝は彼の国民のことを本当によく理解していたようです。

⑤ 我らの正義とは汚れた腰布である。(イザヤ書)

イスラエルとアラブ世界では正義の種類が異なります。プーチン大統領は、彼自身が正義だと信じているもののためにウクライナを侵略したのでしょう。

⑥ 追う者も追われる者も神の名を唱える。(アラブの格言)

この引用は解決できないものがあることを示しています。

⑦ 女性は上質のワインのように歳を重ねるごとに味わい深くなる。(不詳)



マクロン大統領が高校の時の先生を妻に選んだ理由を容易に理解できます。

(出典: Courrier Japon Web 版)

10年に1度行われるキリスト受難劇を観て

ひと昔以上も昔の話である。ドイツ・バイエルン州のアルプスの山々に囲まれたオーバーアマガウという所で10年に1度キリスト受難劇があるとのことで、2010年にそれを観に行くことにした。オーバーアマガウはミュンヘンから100kmぐらい離れた、人口5000人位の小さな村である。2009年の夏に何気なくネットで2010年がその”10年に1度”のキリスト受難劇の年であることを知り、早速ネットで入場券を申し込んだ。

オーバーアマガウで受難劇が行われるようになったのは1634年からである。ペストの大流行で大勢の村人が亡くなった時に、生き残った人達がこれ以上の犠牲者を出さないために「もし絶滅から免れたならば、私たちの主イエス・キリストの苦難と死と復活の劇を演じます」と誓いを立てて、「受難劇」が始められた。人口の約半数の人たちが企画、演出、演技、オーケストラ、コーラス、動物係、裏方などを全部こなすのである。受難劇に参加できるのは村で生まれたか、20年以上住んでいる人だけといわれる。2010年は41回目の公演で、5月15日から10月3日まで102回上演された。現在では世界中から観客が集まる。

ミュンヘンとその周辺の観光も兼ねて、ミュンヘンに飛んだ。空港でレンタカーを借りた。昔、30代半ばのころに当時の西ドイツのマルブルク大学に研究留学したことがあり、その時に取得したドイツの運転免許証を持参した。ドイツの運転免許証は日本と違って死ぬまで有効である。従って免許証に付いている顔写真は30代当時のままである。オーバーアマガウは小さい村なので、その近傍のガルミッシェ・パルテンキルヒェンという街にホテルを取った。ガルミッシェ・パルテンキルヒェンはドイツの最高峰ツークシュピッツェ山の登山口として有名で、毎年スキーマのワールドカップが行われ、冬季オリンピックも行われた人口3万人弱の街である。

2010年5月29日(土) 午後ホテルを出発してオーバーアマガウに向かう。約20kmのドライブである。オーバーアマガウは初めての訪問であり、駐車場についてもよくわからないので、事前に公演会場の近くのレストランの夕食を予約して、その駐車場を貸してもらうことにした。受難劇の会場の収容人数は4700人で、客席には屋根が付いているが、舞台には天井が無く青空がみえる。14:20に会場に着いたときは殆んどのお客で埋め尽くされており、すごい熱気であった。我々の席はステージから2列目であった。荘重なオーケストラの音楽から始まる受難劇であるが、なにせドイツ語のみであるのが問題である。オペラのような字幕は無い。しかしドイツ語を理解できそうもないアメリカ人も多い。英独語のガイドブックがあり、それを時々参考にしながら観劇する。ストーリー的には大体理解できるのであるが...。受難劇は午後と夜の2部に分けて開演されていた。受難劇は11の場から成り各場の間には「生きた絵」(活人画)を



受難劇の会場



オーバーアマガウの街中

使い、旧約聖書のシーンを演出する。

14:30~17:00の第1部には沢山の村人・子供、それに馬・羊・山羊・ロバなどいろいろな動物が出てくる。当然、舞台上には動物のフンも落ちてくる。1部が終わる頃には雨が降ってきた。そして休憩時間は3時間もある。街中は観客であふれる。予約したレストランで夕食をとり、街中を散歩した。オーバーアマガウは伝統工芸の木彫り人形が有名である。もう一つの名物が、民家の壁に描かれた鮮やかなフレスコ画である。村を歩いていると次から次へと現れて目を楽しませてくれる。美しい家々の背後にそびえるのはアルプスの山々。受難劇の舞台に相応しい神々しい風景が広がる。第2部は20:00から重苦しい審判の場面から始まった。終演時間は22:30の予定であったが、実際に終わったのは23:00頃であった。夜に入ってからのはかなり気温が下がり寒かった。なにせ海拔800mの5月の夜は寒い。イエスが十字架を背負いゴルゴダの丘への道を歩く姿には、思わず裸のイエス役に同情してしまう。4700人収容の会場は寒かったけど、熱気あふれる受難劇であった。私はクリスチャンではないが、なにか“すごいもの”を観たという印象であった。

土屋 敦雄(会員)

福島自由人[2024年11月3日発行]掲載文章より。
13年前 Île de Bonheur 2011年6.7月号で既掲載済と固辞されるも、再寄稿を事務局で願い出ました。

久美子の歳時記～ J'adore les gâteaux (16)

<Crème brûlée クレーム ブリュレ>

クレームブリュレといえば、思い出すのは2001年公開のフランス映画「アメリカ」キュートな主人公アメリカ、モンマルトルやパリの街並み、食文化、どこかレトロで繊細な劇中歌～日本でも大ヒットとなりました。ご覧になった方もたくさんいらっしゃることでしょう。

アメリカがモンマルトルのカフェで、キャラメリゼされたカリカリの表面をスプーンで割るシーンから、クレームブリュレが大ブームに。

フランス語で「焦がしたクリーム」の意味のこのお菓子は、卵黄と牛乳、バニラと生クリームで作る濃厚なクリームを、低温で優しく湯煎で焼き、表面にたっぷりまぶした砂糖をバーナーでキャラメリゼしていただきます。そのとろけるようなクリームの食感と、パリパリのキャラメル歯触りが、楽しくうれしいデザートです。寒いこの季節、熱いお茶との相性も抜群です。

レシピをご覧になりたい方は事務局までご連絡ください。



本田久美子（会員）

フランス語会話教室 受講生募集しております！

2025年度授業日程及び時間割

福島県林業会館 1F 会議室

| 前期：15 cours | | | 後期：15 cours | | | 講座 | 時間 | 受講料 |
|-------------|----|-------|-------------|----|-------|-----|-------------|---------|
| Avril 4月 | 19 | 26 | Oct. 10月 | 4 | 18 25 | 初級1 | 10:00～11:00 | 78,000円 |
| Mai 5月 | 17 | 24 31 | Nov. 11月 | 15 | 22 | 上級 | 11:00～12:00 | 90,000円 |
| Juin 6月 | 21 | 28 | Déc. 12月 | 6 | 13 | 初級2 | 12:00～13:20 | 78,000円 |
| Juillet 7月 | 12 | 19 26 | Janvier 1月 | 17 | 24 31 | 入門 | 14:20～15:20 | 78,000円 |
| Août 8月 | 2 | 30 | Février 2月 | 7 | 14 28 | 中級 | 15:20～16:40 | 78,000円 |
| Sept. 9月 | 6 | 13 27 | Mars 3月 | 7 | 14 | 準上級 | 16:40～18:00 | 82,000円 |

年30回 毎月授業開催日は土曜日となっております。

※4回分納可（中、高生68,000円）

フランス料理を楽しむ会 受講生募集しております！

月曜コース・水曜コース 2025年度前期4回日程（後期も4回の予定です）

会場：福島 MAX アオウゼ 4階「調理実習室」

定員：各コース12名

時間：10:00～13:00

| コース | 開催月日 | 講師 |
|-------|--------------------------|---|
| 月曜コース | 第1回：5月12日 第2回：6月9日 | 第1、2、4回：渡邊昭徳（アルソーニ オーナーシェフ） 第3回：水野明彦（郡山ビューホテルアネックス「茶々」料理長） |
| | 第3回：7月7日（お菓子の日） 第4回：9月8日 | |
| 水曜コース | 第1回：5月14日 第2回：6月11日 | 第1、2、3、4回 菅野喜代治（県立美術館カナル前オーナーシェフ） |
| | 第3回：7月9日 第4回：9月10日 | |

